

ライフスタイルデザイン研究所の活動報告

— (仮称) 都心下町まちづくり研究会 —

— 廃校利用研究会 —

《廃校利用研究会の実施の状況》

- これまで地方都市における廃校活用に関する研究を行ってきた**廃校利用研究会**ですが、都心部の廃校に焦点をあて、東京都中央区の小学校をケーススタディとして研究していくことになりました。
- 2013年1月21日に研究会が行われ、東海大学杉本研究室の学生が修士設計として研究している中央区の復興小学校（関東大震災の復興事業の一つとして建てられた特徴的なデザインを持つ小学校）である城東小学校の研究内容のレクチャーと勉強会を行いました。
- 2013年3月27日の研究会では、中央区の復興小学校の概要について、社内勉強会を行いました。
- 10校あった復興小学校のうち、建設当時の姿のまま小学校として使われているものは4校あります。それらの中央区の今後の方針として、城東小学校は学校機能を残しつつまちづくりと連携した新たな学校のあり方を検討すること、一方で建物の保存・活用方法の検討を行う学校もあることが分かりました。

《今後の方向性》

- 勉強会を踏まえ、今後は中央区の復興小学校に焦点をあて、検討していくことになりました。
- 廃校利用研究会**では、建物の保存・活用方法の検討が求められる常盤小学校のケーススタディを行います。
- また、新たに**(仮称) 都心下町まちづくり研究会**を立ち上げ、学校機能を残しつつまちづくりと連携した学校のあり方の検討が求められる城東小学校のケーススタディを行います。
- 今後は**(仮称) 都心下町まちづくり研究会**と**廃校利用研究会**が連携しながら研究を進めていく予定です。



復興小学校として特徴的なデザインの城東小学校の様子

文：坂倉忠洋

ライフスタイルデザイン研究所の活動報告

— (仮称) 地域・社会によるPPP研究会 —

《研究会の概要》

- 今後、地方公共団体が取得した歴史的建造物等について、指定管理者制度によって運営・管理されるものが増加していくであろうことをふまえ、現在活用の方向性が検討されている愛知県半田市の赤レンガ建物（旧カプトビール工場）を対象にケーススタディを行い、市民や民間企業（ライフスタイルデザイン研究所を含む）などの地域や社会が維持・管理していく方策を研究・検討していきます。

《研究会の実施の状況》

- 2012年11月8日に第1回研究会が行われ、半田赤レンガ建物の概要を把握するとともに、指定管理のあり方についての基本的な整理を行いました。
- 2013年3月19日に第2回研究会が行われ、全国の煉瓦造の建物を含む歴史的建造物を活用した施設の管理・運営の状況についての事例報告がなされ、地元NPO等の地域主導で管理・運営されている事例も現れ始めていることがわかりました。



半田赤レンガ建物全景（2013年3月2日の一般公開日）



ひな人形の展示

喫茶コーナー（復刻カプトビール等を提供）カプトビールの展示（復刻して販売）

文：高桑雅史

RESEARCH ACTIVITIES

Apr.2013

Vol.8

ライフスタイルデザイン研究所の活動状況

- 当社では、社会状況の変化に対応したライフスタイルの変化が都市や建築をどのように変えていくのかについて、社内外の「知恵の連携と統合」を進めながら、多くの研究と提案を行っていきたくと考え、「**ライフスタイルデザイン研究所**」を設立しています。
- 東京都中央区において、復興小学校というまちの拠点を活用しながら都心下町の駅前地区のまちづくりに関する研究を行う**(仮称) 都心下町まちづくり研究会**を新たに立ち上げました。
- 歴史的都市における公共建築のあり方を研究している**小田原研究会**は、当社設計部が参画した「小田原芸術文化創造センター基本設計業務デザインプロポーザル」の提案づくりにおいて協力し、これまでの研究成果を踏まえて、景観やまちづくり等の視点から協力しました。
- (仮称) 地域・社会によるPPP研究会**は、歴史的建造物等の市民・民間企業による維持・管理の方向性について検討を行うものとして、活動を開始しています。
- 当社独自のカラーユニバーサルデザインガイドラインの作成を行う**カラーユニバーサルデザイン研究会**では、これまでの研究内容をまとめ、ガイドライン（案）のとりまとめを行っております。

研究所活動体制表（2013年度）



株式会社 安井建築設計事務所
ライフスタイルデザイン研究所

研究会活動

研究会全体の状況

- ・前号の発行以降、第7回～第19回の合同研究会が行われました。
- ・合同研究会では、歴史都市における公共施設のありかたについて研究していましたが、2012年12月に「小田原芸術文化創造センター基本設計業務デザインプロポーザル」が公告され、当社設計部が参画することになりました。
- ・研究会としてこれまでの研究成果を活かすため設計部をサポートする立場で参画しました。研究会では、都市デザインの分野の専門家である芝浦工業大学の作山康先生と協力し、小田原における市民ホールのあり方やまちづくり、景観など様々な視点から協力しました。
- ・また、提案にあたっては、小田原市の観光拠点でもある清閑邸のオーナーへヒアリングを行い、地元住民にとって使いやすい施設計画を行いました。

2012.4～

■合同研究会：歴史都市における公共施設のあり方の研究

2012.12

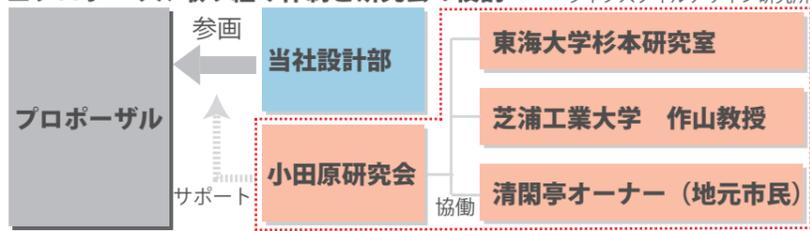
■プロポーザル公告

名称：小田原芸術文化創造センター基本設計業務デザインプロポーザル
 主催：小田原市
 趣旨：芸術文化創造拠点の創生や芸術文化活動の促進をテーマとした上位計画や市民意見により作成された市民ホール基本構想及び基本計画にもとづき、芸術文化活動を通じて、地域と市民が核となつてつくり出していく施設を整備する。

2012.12 ～ 2013.3

■プロポーザル取り組み体制と研究会の役割

ライフスタイルデザイン研究所



小田原研究会の様子

提案概要

市民が成長していく過程の中で記憶のひと幕をつくる大切な場所となる芸術文化創造センターを「城前座・おだわら」として提案しました。

- 提案① まちの活性化—「城前リビング」～まちをつなぎ、人と文化が交流する場～
- 提案② 芸術文化の育成—「まち座」～様々な活動を「愛着」をもって運営・支援していく仕組み～
- 提案③ 芸術文化の日常的発信—「外見世回廊」～芸術文化の「誘発」「連鎖」「発信」する空間づくり～

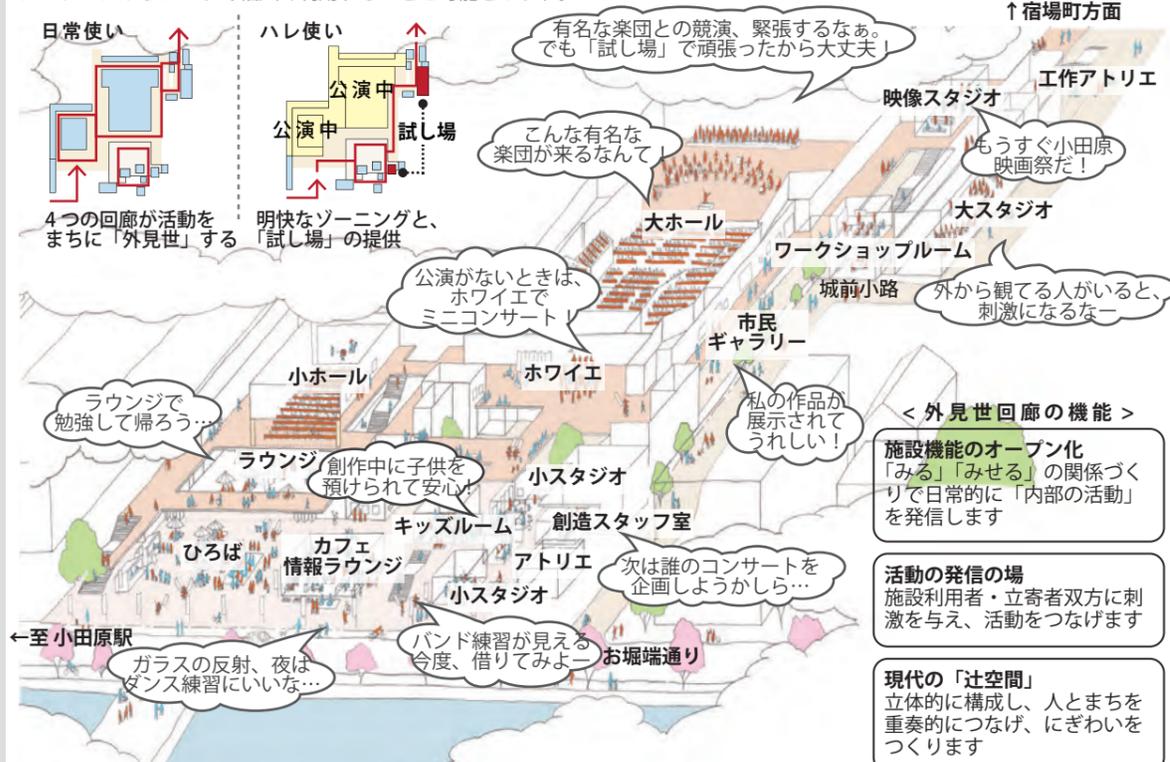


城址内からお堀越しに見る計画施設の正面

芸術文化の日常的発信—「外見世回廊」—芸術文化を「誘発」「連鎖」「発信」する空間づくり

■日常使いとハレ使いの双方で利用しやすく、切替えが容易な「外見世回廊」

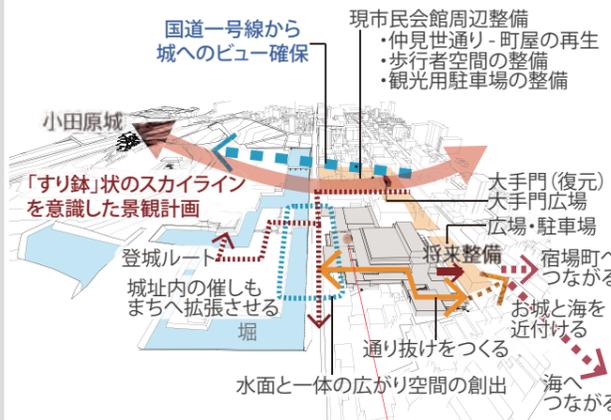
・城前としてお城を中心とする外部からの「みえ方」と内部からの「みえ方」の双方に配慮すると共に、各施設を外に開くことで、日常的に「内部の活動」を発信していくにぎわい空間づくりとして「外見世回廊」を提案します。「外見世回廊」は施設配置（ゾーニング）と可動パネルによって、日常使いとハレ使いの切替を容易とします。日常使いでは、ホワイエやバックステージ（楽屋等）が市民に開放されます。ハレ使いでは、スタジオやアトリエが「試し場」※になるなど、アマチュアからプロまで幅広く利用することを可能とします。



まちの活性化—「城前リビング」—まちをつなぎ、人と文化が交流する場—

■都市回廊の結節点として、人とまちをつなげる

・計画地がお城と宿場町の結節点であることを踏まえ、「なりわい文化」「邸園文化」などの地縁ネットワークのつながりを強めるために、まちの回遊出発点にすると共に、城前にある気軽に立ち寄れるまちなかの「リビング」とします。



まちなかの「リビング」として機能する、城が望める2階共通ロビー

芸術文化の育成—「まち座」

—様々な活動を「愛着」をもって、運営・支援していく仕組み—

■「まち座」を共創する、柔軟な「人と組織」

・小田原にはかつて「座掛け」があり、今も文化意識の高い人材に恵まれているため、小田原ゆかりの「報徳思想」(社会貢献)に則つて、市民自らが「文化の担い手」を育て、企画・運営していく仕組みとして「まち座」を提案します。
 ・ライフワークとして市民の方と一緒に「まち座」をより立てる「人」が集結して「組織」(設計チーム)をつくり、対話しながら共創していきます。

